



復刊第106号  
題字 吉岡弥生

### 昔と今と

副会長 久保田くら

今冬の寒さはきわめて厳しくござい  
ましたので、時折「寒さに耐えか  
ねる」とのお声をきくこともござい  
ましたが、諸先生がたには春うらら  
かなよき日和をむかえられ、ご活躍  
のこととお慶び申し上げます。

このたび私は副会長という想像も  
しなかつたお役目をいただき、光栄  
と存じております。ただし、すでに  
もうすぐ一年にもなろうとしている  
のに、いまだ戸惑う事のみで、お役に  
たち得ぬままに日を過す不甲斐な  
さを感じているところでございます。  
さて、私が本会に入会いたしました  
たのは、第二次世界大戦後間もない  
ころで、当時の総会は日比谷の松本  
様で行なわれることが多く、錚々た  
る大先輩が戦争で中断された後の諸  
事整わぬ状態からの再出発について  
の数々の問題を討議しておられまし

たが、若い部類に属していた私が覚  
えていることは「会の和と一致」に  
ついて相当の努力を傾けておられる  
様子で、お歴々は会が終了してもな  
お散会せず、ご苦労の面持で真摯に  
ご相談をしておられる姿を拝見した  
こともございました。  
日本女医史(編集委員長・福田幹  
子)を読むにつけ、大先輩は実に進  
歩的な考えをもっておられ、その上  
私心なく、女医全体のために労苦を  
いとわず、会自体に尽力されたこと  
をよく知り、残された数々の足跡は  
今もなお輝き続けるのは当然である  
とうなづかれるのでございます。大先  
輩がたは社会人としての修練を充分  
積み重ねた上に医学を身につけたか  
たがたばかり、したがって人間性豊  
かなかたがたであったと考えられま  
す。

私は平常から、人間としての人間性  
が職業よりも先んじると考えたい人  
間なので、先輩諸賢は「偉い」とし  
か申し上げようがないほどの敬意を  
もっております。

なお、日本女医学会の創立のころ、  
いち早く現在のアイ・バンクのよう  
に、角膜炎の提供を思いつかれた先輩  
がいらつしやつたことを女医史を読  
んで知り、この先見に目をみはるよ  
うな驚きを感じ、先見や発見は知識  
なくしてはあり得ないのではないか  
等と自己流に、ひそかに考えており  
ますので、この先見を「偉い」とい  
う月並の言葉で表現するほかに表現  
をもたないほどの驚きでございまし  
た。

公許女医第一号の荻野吟子先生、  
女医養成の場をあえて創立された吉  
岡彌生先生および列挙するに余りあ  
る代々の多数の先輩諸賢のおかげを  
もって、今日の私どもの平安の路線  
が敷かれたものと考えられます。

私どもは、将来も先人の業績をふ  
まえぬわけにはゆかないことはもち  
ろんでありますが、敷かれた路線を  
歩むだけでは詮ないこと、よりよき  
歩みを、力を合わせて進むべきを覚  
悟いたさねばなりません。医師の団  
体は多数ございますが、日本中の女  
医が一堂に会しての団体は、ただ一  
つしかないのであります。他の団  
体と同様の生き方では意味がない、  
いわんや他の女性の団体と同様では  
存在の意義を失うものであろうかと  
思われます。また、医者はとくに客

### もくじ

昔と今と.....	久保田くら (1)
支部だより.....	
地道な活動を重ねて(栃木支部).....	堀口 文 (2)
山崎会長を大阪にお迎えして(大阪6支部).....	野呂 幸枝 (2)
吉岡弥生賞を受賞して.....	
——吉岡弥生先生を偲う——.....	若林 静子 (3)
吉岡弥生賞を受賞して.....	松山 京子 (3)
学術研究助成研究経過報告.....	
末梢性痛覚過敏に関する神経生理学的研究.....	水村 和枝 (4)
ステロイド産生細胞における脱水素酵素の 局在とその動態.....	河合紀生子 (4)
ヒト白血球性幹細胞に対する 成熟顆粒球の影響.....	泉一登志子 (5)
糖尿病と妊娠.....	大森 安恵 (6)
昭和六十年厚生白書を読んで.....	佐藤千代子 (7)
朝日社会福祉賞に輝く林富美子さん.....	中西 清子 (9)
サーキュラー・レターNo.80.....	藤井 儔子 (10)
第31回日本女医学会総会ご案内.....	
第20回国際女医学会会議演題抄録募集.....	
会員の消息.....	(3)
理事会議事録.....	(10)
常任理事会議事録.....	(11)
会員動静.....	(12)
編集後記.....	(12)

観性を必要とする職業であり、医学  
にもたけていなければなりません。  
したがって私どもが会として、また  
会員として、他にまさるユニークな  
生き方をしているならば、若い方々  
は憧れの心を向けてくださるよう  
なり、「日本女医学会に入会しましよ  
う」ということにもなる事と思われ  
ます。今、私どもの歩みつつあるこ  
の道はとりもなおさず、将来の若い  
かたがたへの路線の一部として永久  
に消えることはないことを心に決め  
て歩みたいものでございます。不束  
で拙なく、かつまた不慣れの私のこ  
ととて申すことも不消化以前の状  
で、お聞き苦しいばかりかと存じま  
す。終わりに、今後のご指導ご叱正  
を心から願う次第でございます。

支部だより

地道な活動を重ねて

栃木支部 堀口 文

栃木県には昭和五十九年十二月現在二百四十四人の女医がいます。栃木女医学会には県内女医の半数以上の百二十人が参加しており、身近なところで女医のつながりを深めるよう活動しています。

年一度の総会では、「女性の寿命」(日本医大老人病研究所病理学教授・金子仁先生)、「血液型不適合妊娠について」(独協医大産婦人科助教授・堀口文先生)などの学術講演会を行ってきましたが、六十年度は独協医大に在職中の三人の講師による、VTRやスライドを駆使してのセミナーの学術講演会が行なわれ、その様子は、読売新聞栃木地方版でも報道されました。

会員には、県教育委員長をしておられる南里栄子先生(産婦人科開業、二百床の滝沢病院院長で、初代の栃木女医学会会長、日本女医学会栃木支部長であられた滝沢先生(精神科)、三十年間栃木県の衛生行政に携わり、今なお老人の衛生管理に情熱を持って取り組んでおられる石塚たけ先生、大田原と矢板の二保健所所長をして

山崎会長を大阪にお迎えして

大阪6支部 野呂 幸枝

二月十一日に会長山崎倫子先生が来阪、大阪支部会および大阪府女医学会で講演がありました。大阪には日本女医学会の十支部がありますが、会員数はわずかに百二十名で、その間の連絡、交流に乏しい状態でした。昨年四月支部長会を開き、六十二年総会を大阪でお引き受けすることに決定し、これを機会に会員数を増し、大阪支部の結束を計ろうと意見がまとまりました。

幸いに大阪府女医学会は三百人をこえ、活発な活動をしていらつしやいます。府女医学会で、日本女医学会に未加入の先生方にも日本女医学会をご理解いただき、ご参加下さればよいと考え、山崎会長のお出ましを願った次第です。

午後二時東洋ホテルに到着された会長を囲み、大阪支部会員二十名ほどが集まりました。初めて山崎会長にお目にかかる先生も多いたのですが、活発な会話、質問がありました。会長の魅力的なお話ぶりに一同は感激し、日本女医学会の意義を再認識いたしました。

四時から、大阪府女医学会の席に移り、日本女医学会の沿革と使命などに

第31回日本女医学会総会のご案内

日時 昭和61年5月24日(土)・25日(日) 場所 東京・新宿・京王プラザホテル

評議員会 昭和61年5月25日(日) 午前11時  
総会 午後1時 本部執行  
講演会 午後3時30分  
懇親会 午後5時  
A 観劇(歌舞伎座 団菊祭)  
B 観劇(満員締切)  
C 都内バス観光(半日)

宿泊をご希望の方は、事務局(〇三一九八〇五七一)へ至急ご連絡下さい。

日本女医学会東京都支部連合会会長 今野信子

吉岡弥生賞を受賞して

吉岡弥生先生を偲ぶ

神奈川支部 若林 静子

このたび皆様のおかげで、こんな名誉な賞をいただき、ほんとうにありがとうございます。お礼の申し上げようもございません。ご通知をいただき、まったくもって驚きました。ご立派なご功績のある皆さまをさし置いて、何の価値もない私がいまだくことになり、恐縮の上ないこととさせていただきます。

吉岡先生には、ずいぶん可愛がっていただきました。人一倍に小さい私が痛々しかったのでしよう。まったくお恥しい質素な私の結婚式にもわざわざ横浜まで来て下さいました。和式では金がかかるから、今度の時は洋式にしたいと言われたので、「先生、二度と結婚はしません」と大笑いしました。

卒業式の謝辞も、まさか私が主催するとは思ってなかったのんきにしています。先生のお願で上野の精養軒を取っていただきました。一番で卒業されたかたをさし置いて、謝辞はお前がしろのご命令でしかたなく承知したのですが、何しろ広い会場なので、私が立って

吉岡弥生賞を受賞して

私のもう一つの仕事の母子福祉事業のための資金集めに、山下公園に売店をもち、診療の合間に出かけて売子をしております。横浜へお出での節は売店へお立ち下さいませ。幸に健康ですが、老化現象で、歩行がやや困難。それより視力が弱って

昭和六十年五月二十六日、この日は私の生涯で一番晴れがましい日でありました。この日、新宿の京王プラザで開催された日本女医学会総会の席で夢想もなかった吉岡弥生賞が授与されました。眩い光の中で三神会長様から賞状をいただいた時、感激で体が震え、軽いめまいを覚えました。昭和四年本科四年生とき、東京女子医専で毎月開かれていた校風会の席上で、来年度卒業予定の学生が一人ずつ、校長吉岡弥生先生や諸先生の前で将来の抱負を述べました。その時私は「将来は無医村で診療し病む人の友となつて一生を捧げたいと思います」と気負ったことそれから十五年後の終戦直後ならずも東北の無医村に開業いたしました。東北の無医村に開業いたしました。私の開業した金ヶ瀬村は、家々の前

を流れる小川が生活用水で、上流で汚物を洗っている下流で米をとき、野菜や漬物まで洗っていました。その結果赤痢や腸チフスが多発し、私が開業した頃は避病院は満員でした。また小中学の検診結果はトラコーマ二二%、鉤虫、回虫の寄生率は三〇%を越すありさまで、どこから手をつけたらよいやらと思案にくれました。そこで以前勤務していた宮城県衛生課の青木大輔博士にご助力を願ひ、小学校講堂で集団駆虫をしました。トラコーマは重症は眼科に送り、軽症は学校で私が治療し、タオルの専用、洗顔などきわめて初歩的なことから始めました。これらの事はとても私一人の手に負えませんので、養護の先生や婦人会の人たちの協力を願ひ、夜診療が終わってから紙芝居などを自転車の荷台につけて各部

多いと思います。ゲストとして大阪府医師会長と数人の男性医師も列席されて知れたので、日本女医学会の姿を改めて知れたことでしょう。山崎会長には厳寒の折柄、遠路お越しいただきました成果は十分にあがったと存じます。今後は新会員が申し込みを容易にできるよう、お世話しなければならぬと考えています。この会合を持つために、大阪府女医学会長山崎子先生のご尽力と、大原一技理事のご協力をいただきました。深く感謝しています。

会員の消息



\*山田 直枝(山梨支部)

東京女子医専・昭和十六年卒  
付属病院の内科医局勤務を経て、故郷山梨県の白州町の診療所に勤務、交通不便な峡北地方を馬で往診された時代もあった。戦後甲府市で開業、昭和四十七年ご主人様がご逝去され、お子様たちも医師として独立された現在、三重県にある北勢病院に勤務されているが、故郷山梨、ふる里の人々が忘れられず、二週間に一度、手弁当で、三重県から山梨の宮本診療所まで通い、僻地の人々の信頼に応えておられる。私は学生時代、無医村の診療に携わったその時の気持と同じなのよ、と明る。

\*林 富美子(静岡支部)

東京女子医専・昭和四年卒  
昨年のエイボン女性教育賞受賞に引きつづき本年一月朝日社会福祉賞を受賞された。

落ことに何回も衛生講話をして廻りました。その後、法定伝染病は皆無となり、昭和二十五年金ヶ瀬小学校は県下一の健康優良校として表彰されました。現在小中学校のトラコー

### 末梢性痛覚過敏に関する 神経生理学的研究

名古屋大学環境医学研究所  
神経感覚部 門  
水村 和枝

火傷などの炎症部位は微温湯ですら熱く感じると感じる痛覚過敏状態になるが、その痛覚過敏の機序を神経生理学的に明らかにするため本研究を行なった。侵害情報を伝える受容器には、針で刺すような鋭い機械的刺激に特異的に反応する高閾値機械的侵害受容器と、機械的、熱的、化学的侵害刺激のいずれにも反応するポリモダル受容器の二種がある。前者は皮膚にしか見いだされていないのに対し、後者は皮膚、骨格筋、内臓に広く分布しており炎症痛を伝えていると考えられている。私どもは、その求心繊維の90%以上がポリモダル受容器であり受容野の温度や刺激物質の濃度をコントロールしやすい鞏丸一上精果神経の取り出し標本の実験系を開発し、この系を用いて実験を行なった。

受容野を浸す Krebs 液の温度を50度C付近まで上昇させた場合、平均四四・三度C(=0.8)よりポリモダル受容器に放電増加が見られた。49C+1Cの範囲での平均放電頻度は 1.9 imp/sec (n=27)であったが、この受容器の最高放電頻度はさらに高い温度域で得られる。二十例において熱刺激を十分間隔で繰り返したところ、十三例で閾値温度の低下(約三度C)と放電頻度の増大よりなる感作が生じ、七例でその逆の脱感作が生じた。これら二群に属するポリモダル受容器の性質を比較して唯一見いだされた違いは、熱閾値が感作群(四六・二度C)に比べ脱感作群(四二・一度C)において有意に低いことであった。また感作群では、感作成立後には三・六%の高張食塩水に対する反応が感作前

マは全国と同様に零となり、寄生虫も蟻虫を除いては零となりました。子供たちは都会の子と変わらないような小さっぱりとした服装で、昔の面影はどこにもありません。しかし

### 学術研究助成研究経過報告

飽食時代の波はこの小さい町にも押しよせて、肥満や糖尿病の患者もふえつつあります。糖尿病対策は柴田方式として全国に放映され紹介されておりあります。私も地域医療対策委員

に比べ有意に大きくなっていった。以上より in vitro の系でも感作が生じることが明らかになり、また熱刺激に対する反応と発痛物質に対する反応とをともに増強するものがあることが示唆された。

つぎに炎症部位に遊離され増加して痛みを強めるといわれるセロトニン、プロスタグランジン(PGEG212)の効果を検討した。いずれも炎症部位に見いだされるような低濃度では単独ではポリモダル受容器の興奮を引き起こすことは稀であったが、発痛物質であるブライキニン、高張食塩水に対する反応を著しく増強した。一方、細径求心神経末梢に含まれる神経興奮時に遊離されるといわれているサブスタンスPは、発痛物質に対する反応を増強する効果もほとんどみられなかった。

PC合成を抑制するといわれるアスピリンはポリモダル受容器のブライキニンに対する反応を抑制したが、高張食塩水に対する反応はほとんどかえなかった。この事実は個体レベルで調べられたアスピリンの鎮痛効果とよく一致する。

これらの結果をもとに、今後さらに作用物質の拮抗薬の効果等を調べたい。実験はすべて熊澤孝朗教授、佐藤純君と協同行なつたものである。

### ステロイド産生細胞における 脱水素酵素の局在とその動態

長崎大学医学部  
病理学教室  
河合紀生子

ステロイドホルモンはコレステロールから種々の段階の水酸化および脱水素化を経てコルチゾル、アルドステロンなどが合成される。この際、水酸化酵素および脱水素酵素など多くの酵素が関与しており、それらはステロイド産生細胞の細胞内小器官に存在するとされている。今回はステロイドホルモン合成に関与する 3 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase (3 $\beta$ -HSD) および Glucose-6-phosphate dehydrogenase (G6PD) の脱水素酵素の局在を  $\text{Cytochrome P-450}$  レベルで明確に観察し、その合成過程およびそれによつて調節される細胞内小器官の役割について検討した。

### 材料および方法

雄の Wistar 系ラット(200g)をエーテル麻酔下で開腹し、両側副腎を摘出し、1%ホルムアルデヒドおよび0.25%グルタルアルデヒドの混合液で細切固定した。Vibratomeで40 $\mu$ —100 $\mu$ m切片を作製し、3 $\beta$ -HSD および G6PD の反応液(表1)に三七度Cで九〇分、六〇分それぞれ浸漬し、酵素反応を行なった。反応後の浸漬切片はオスミウム酸で再固定し、脱水後エポン包埋し、超薄切片を作製し、鉛染色後電顕の観察を行なった。

### 結果

3 $\beta$ -HSD: 酵素活性の示標であるフェロシアン

ン化銅の最終反応産物は多くは径300Åの電子密度の高い円形顆粒状の沈着物として観察され、他に径100Åまでの微細な顆粒状の沈着物の集塊として認められた。これらの反応産物は副腎皮質の主として束状帯細胞に認められ、その分布や程度は細胞によって異なっていた。この事実はステロイド合成に関与する細胞の相(phase)の相違を示していると考えられた。細胞内では多くの

反応産物はミトコンドリアのクリスタ内腔に局在しており、時に内膜に接してみられた。他に滑面小胞体(SER)やSER近傍の細胞質に反応産物の局在がみられた。Gold装置や核には反応産物は認められなかった。

### 考察

3 $\beta$ -HSDは、pregnenolone から progesterone に転化する際に必要な脱水素酵素で生化学的にはSERの分画に存在するとされている。本実験では3 $\beta$ -HSDは主としてミトコンドリアのクリスタに局在しており、ラット副腎皮質ではミトコンドリアがステロイド産生に重要な役割を果たしていると考えられた。文献的にもラット副腎皮質ではミトコンドリアに局在していたという報告があることからもうつけられた。また、細胞質内にみられた反応産物はリゾソームの分布に類似しており、両者の関連性を含めて興味深く思われた。

近年、白血病性芽球をメチルセルロース内に埋め込み培養すると白血球芽球コロニーが形成されることが知られ、そのコロニーの基になる細胞が白血球性幹細胞と考えられている。この白血球性幹細胞を調節する因子については明らかでないが、正常顆粒球系幹細胞の増殖は成熟顆粒球によって抑制され、顆粒球産生の調節が行なわれていることが知られている。本研究は、白血球性幹細胞の増殖が成熟顆粒球による調節を受けているか否かを明らかにすることを目的とした。

ロニーを形成させた。(2)この培養系に正常成熟顆粒球を添加し、白血球芽球コロニー形成に与える影響を調べた。顆粒球は、正常ヒト末梢血からフェイコールコンレーおよびメチルセルロースを用いて分離した。一部の実験では、未処置顆粒球の代りに凍結融解した顆粒球や放射線照射した顆粒球を用いた。また正常顆粒球の代りに慢性骨髄性白血病患者の成熟顆粒球を同じ方法で採取し、これを培養系に添加し、その影響についても調べた。さらに、顆粒球の細胞内分画の白血球芽球コロニー形成に与える影響をみるため、顆粒球を窒素キヤビテーションを用いて破壊し、超速心で各分画にわけ得られた各分画をそれぞれ培養系に添加し、細胞内各分画のコロニー形成に与える影響を検討した。

東京女子医科大学内科 I 泉一登志子

### 目的

ヒト白血球性幹細胞に対する成熟顆粒球の影響

表1

### Incubation medium for 3 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase

Dehydroepiandrosterone (or Etiocholane 3 $\beta$ -ol-17 one) (in 0.6 ml DMSO)	2.0 mg
NAD (in 6.4 ml phosphate buffer pH 7.2)	10.0 mg
0.1 M Sodium citrate solution	1.0 ml
15 mM Copper sulfate solution	1.0 ml
5 mM Potassium ferricyanide solution	1.0 ml
Phenazine methosulfate (PMS)	1.5 mg
Total	10.0 ml

### Incubation medium for glucose-6-phosphate dehydrogenase

Disodium (or Monosodium) salt D-glucose-6-phosphate	31.9 mg
NADP	9.9 mg
0.1 M Sodium citrate solution	1.0 ml
15 mM Copper sulfate solution	1.0 ml
5 mM Potassium ferricyanide solution	1.0 ml
0.1 M tris buffer (pH 7.2)	7.0 ml
Phenazine methosulfate (PMS)	1.5 mg
Total	10.0 ml

現在、ヒトの手術材料に応用し、過形成、腺腫、皮膚癌などの病的状態におけるホルモン動態についても検討を加えている。

### 方法

(1)急性骨髄性白血病患者の末梢血よりフェイコールコンレーを用いて単核細胞を分離し、ヒツジ赤血球とのロゼット形成により混在するTリンパ球を除去した。この白血球細胞浮遊液をウシ胎児血清、コロニー形成刺激因子(PHA刺激白血球血清)とともにメチルセルロース内に埋め込み、炭酸ガス培養器中で培養し、コ

### 結果

正常顆粒球を添加した群では、顆粒球を添加しない対照群に比してコロニー数は有意に増加した。その増加率は、培養細胞数と同数の顆粒球を添加した場合に一・七二・九倍

で、添加する顆粒球数を増すにつれて、添加する顆粒球数を増すにつれて...

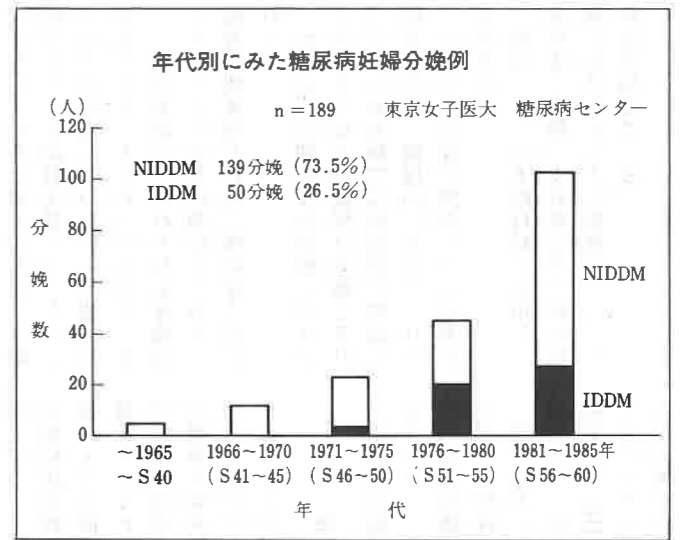
以上の結果から、成熟顆粒球は正常顆粒球系幹細胞に対してその増殖を抑制し産生を調節しているが、白血球性幹細胞に対しては増殖を促進するように働くこと、その成分は細胞内可溶性分画中に存在することが判明した。また慢性骨髄性白血病患者の顆粒球はコロニー形成促進作用を有しておらず、正常顆粒球とは質的に異なることが示された。

糖尿病と妊娠

東京女子医大・糖尿病センター 大森 安恵

私は昭和五十年に、光栄にも、はえある吉岡弥生賞をいただきました。当時小学五年生と六年生になる子供をおいて、単身赴任の形で雪深いカナダ・マギル大学に留学しておりましたので、この賞はその当時行ないました仕事を中心にご推挙いただいたものであります。何分にも十年も前のことでありまして、そのことを中心にお話いたしますと、大変古めかしいこととなりますし、また研究はその場限りのものではなく、連続してやりつづけることに意義があり、とくに私は、吉岡弥生賞そのものによって鼓舞され、またこれによって理解を深めることができる分野ではないかと考え、使命感をもってこの道にはげんでおります。ありがとうございます。とございまして。

おあたえくださいました三神美和朗会長他、大勢の先生がたにはげまされ、お導きいただきまして今日に到りましたので、本日は、糖尿病と妊娠について、その歴史的背景、現況などについてのべたいと思います。ご存知のように、糖尿病は、紀元前一五〇〇年にかかれたエベルス・パピルスが証明するように、人類の歴史とともに存在した病気で、決して新しい疾患ではありません。一九二一年にインスリンが発見されるまで、糖尿病はまさに死を運命づけられた疾患でありました。一九二二年を境に、糖尿病があっても治



つたといえます。私たちがはじめた糖尿病の患者さんがふえていること、糖尿病があっても正しい管理下であれば、妊娠、出産が可能であるという事を明らかにすれば、症例は存在するものであるということが示されたものと考えております。日常臨床において、若い女性が糖尿病をもつということだけでも、ハルデイクアップに感じているわけですから、正しい治療下で正常と変わらない赤ちゃんが産出されるということ、彼女らにとつては、この上もない大きな喜びであるようです。しかし糖尿病の治療が不十分なときの妊娠には、いくつかの問題点があり、その問題点を解決することが私たちが臨床研究のテーマでもあります。その一つは、受胎のとき母親の血糖値が高すぎると、胎児に奇形が生まれることがあるかもしれないということです。私たちは、NODマウスを用いたり、ラットにストレプトゾトシン糖尿病を作らせて、なぜ血糖が高ければ、奇形が発生するか、どの程度の血糖値が奇形と関連しているかなどを観察しています。この奇形はヒトにおいては、受胎前に母体の血糖を完全正常化しておけば、予防し得ることが実証されておりま

昭和六十年厚生白書を読んで

愛知支部 佐藤千代子

イトルが続いている。

『六十年厚生白書』要旨

第一章 長寿社会における社会保障

第一節 長寿社会と社会保障 人生八十年は今や名実ともに現実のものとなった。長寿化、高齢化の進行に伴い、社会の仕組みを人生八十年にふさわしいものに再構築しなければならぬ。そのための課題として、第一に医療、介護のサービスに対するニーズはまず個人の自助努力で解決を図る。その努力に社会保障を適切に組み合わせてゆく。第二に社会保障制度が中長期的に安定的に機能することが重要である。

第二章 社会保障の役割と機能

(国民の自助努力と社会保障) 特に病気の主流をなす慢性疾患に

については、サービス内容として生活指導やリハビリテーションを重視する。新しい「一病息災」の健康観に基づいて組み立てる。社会保障の分野にできる限り民間活力の導入をはかり、基礎的、必需的レベルをこえるニーズについては私的サービスに委ねていくべきである。

(ニーズに即応したサービスの編成) 国民のニーズに即応したサービスを提供するためには保健福祉資源が必要であるが、すでに質、量ともかなりの社会的蓄積がある。老人福祉施設をはじめとした社会福祉施設も近年相当の整備がなされてきている。多様なニーズに効率的、かつ効果的にこたえていくためには、医師、病院などの保健福祉資源を合理的、体系的に編成してゆく必要がある。

(社会保障費用の適正化) 適正化のためには①高齢者の社会参加を支援。②社会保障のカーブすべき範囲水準を適正にし、必需的な部分を超えるニーズについては私的サービスに委ね、消費者の選択に任せる。③適正な受益者負担を課す。

(給付と負担の公平と安定的な制度基盤の確立) 負担面の公平については、国民が連帯して制度を支えるという基本に立脚して公平性が求められるならば

第二章 保健医療・福祉サービスの展開

第一節 第二節 省略 第三節 効果的で効率的なサービスの供給

効果的で効率的なサービス供給には家庭医の育成、サービスのネットワーク化、人的資源の計画的養成、私的サービスの拡大、ボランティア活動の振興等が必要。健康づくりや

第20回国際女医学会会議 演題抄録募集!

会期 一九八七年4月26日~5月2日 開催地 イタリア・ソレント メインテーマ 青年期—医学・心理・社会面 一般演題締切 一九八六年4月15日 AIDSに関する特別セッションの演題・抄録(150~200語)募集 締切 一九八六年6月30日 フルペーパーは11月30日までに提出のこと

各領域の先生方が参加発表しうる多くのサブテーマがあります。詳細をご希望の方は、国際連絡書記までご連絡下さい。(藤井篤子/帝京大・医・薬理Ⅲ03(964)1211内線2340)

表1 厚生白書年次サブタイトル(抜粋)

年度	サブタイトル	[備考] 医療保険制度の変遷
37年	人口革命	
39年	社会開発の推進	療養給付期間の制限撤廃(38年)
45年	高齢者問題をとらえつつ	健保特例法制定(薬剤一部負担の創設)(42年)
46年	こどもと社会	国民健康保険7割給付完全実施(43年)
49年	人口変動と社会保障	薬剤一部負担廃止(44年)
51年	婦人と社会	老人福祉法の改正—老人医療の無料化—(47年)
52年	高齢者社会の入口に立つ社会保障	健保法改正(家族給付7割に引上げ, 高額医療費制度創設, 政管健保の国庫補助の定率化)(10%以上)(48年)
53年	健康な老後を考える	
54年	日本の子供たち—その現状と未来—	健保法改正(ボーナスを対象とした特別保険料の創設)(52年)
55年	高齢化社会への	健保法改正(給付率, 保険料率等)(55年)
56年	国際障害年—「完全参加と平等」をめざして	
57年	高齢化社会を支える社会保障をめざして	老人保健法制定(57年)
58年	新しい時代の潮流と社会保障	
59年	人生80年代の生活と健康を考える	健保法改正(本人9割給付, 日雇い健保の取入れ)
60年	長寿社会に向かって選択する	国保に退職者医療制度を創設(59年)

べき医師の育成、普及の求められて  
いるところである。  
(中間施設)

早急に本格的な実施を図るとともに、  
在宅サービスの積極的展開を図るた  
め、その中心となるデイ・サービス  
事業、ショートステイ事業等につき

大幅な拡充を図っていくこととして  
いる(昭和六十一年一月十日、厚生  
省は「老人保健施設」の創設決定を  
発表した)。

**第四節 サービスの費用と負担  
(医療サービスの費用と負担)**

(1) 国民医療費の動向  
医療保険制度改正直後は全般的に  
鎮静化していたが、六十年三月以降  
は増加傾向に転じ、とくに老人医療  
費の伸び率が增大、今後の本格的な  
人口高齢化に伴って医療費が増える  
ことは避けがたいとしてもその野放  
図な増加は負担主体の負担意欲、活  
力を阻害し、制度の仕組みそのもの  
に対する信頼を喪失させるおそれ  
がある。国民医療費の伸びは国民所得  
の伸びの範囲内に抑えていくことが  
ぜひ必要。

(2) 医療費増大の要因と処方せん  
① 高齢化の進展、② 疾病構造の変  
化、③ 医療技術の進歩、④ 需要と供  
給のメカニズム、⑤ 診療報酬支払い  
方式、これらの要因に対処した医療  
費適正化対策の推進が必要。

(3) 医療費の費用負担  
医療費の費用負担は公平性を確保  
していく観点から、医療保険におけ  
る給付率を今後八割程度で統一する  
ことが必要。負担の不均衡を是正し  
公平化を図るため、おのおの制度  
相互間、および制度内部のいっそう  
の調整を図る必要がある。

(民間保険の動向)  
ニードの多様化・高度化に対応し  
民間保険の種々の商品が開発されて  
いるが公的の制度を補完するものとし  
て活用する。

**第五節 第六節 省略**

**第三章 家計と所得保障  
(年金制度の改革)**

昭和七十年を目標に公的年金制度  
全体の一元化を完了する。

**まとめ**  
人生八十年代をふまえて、社会保  
障制度の再構築が必要とし、今後い  
っそう多様化・高度化する国民の福  
祉に対するニードの解決は公的部門  
だけでは支えきれない。その解決に  
は、まず国民の自己負担と自助努力  
を求め、必需的な部分を越えるニード  
については、私的サービスにゆだね  
、消費者の選択に任せざるべきであ  
ると、国民の自助努力と民間活力の  
導入を強調しているのが、白書を通  
じての厚生省の考えの主流である。  
厚生省として今後この方向に施策を  
遂行するならば、まずその前に現状  
の認識の修正と、それに基づいて健  
康の自立自助、民生活導入の強要を推  
進する以前の問題として行政努力に  
よって解決できる問題には率直に誠  
実に力を注いでもらいたいと願うも  
のである。

『国民のニードに即応したサービ  
スを提供するためには、相当の保険

福祉資源が必要であるが、すでに質、  
量ともかなりの社会的蓄積があると  
考えられる。『社会福祉施設も近年  
相当の整備がなされてきている』と  
白書には書かれているが、厚生省の  
認識通りであれば、その資源は現在  
効率的に配分され、活用されて国民  
の福祉に寄与しているはずであるが、  
現状は果たしてそうであろうか。公  
共の福祉施設に収容されなければ生  
活できない老人が、一年も二年も順  
番待ちのための機能・設備のたかお  
くれ、在宅の寝たきり老人の介護は  
家族、とりわけ主婦の大きな負担と  
なっている。これらの問題は福祉へ  
のニードとして、当然必需部内に入  
る基本保障であるにもかかわらず、充  
足されていない現状は、白書の認識  
と大きな隔たりがある。これらの必  
需的なニードに対し行政努力がなさ  
れないまま国民の負担を強化し、民  
生活導入を図ることは責任放棄とい  
うべきではなからうか。

『高齢化に伴い、当然医療費も増  
加することは避けがたいとしても、  
その野放図な増加は、負担主体の負  
担意欲、活力を阻害し制度の仕組み  
そのものに対する信頼を喪失させる  
おそれがある。医療費の野放図な増  
加とは……理解に苦しむ。近來ひた  
すら医療費削減を図り、国民の健康  
さへ財政再建の視野の中におく現状  
で、医療費の野放図な増加があり得  
るであろうか。もしあるとすれば、  
医療制度の総合的安定を図る義務の

ある厚生省の責任である。これまで  
厚生省の推理、推計の誤りは数字的  
に判然とした結果として証明され、  
施策上のミスは招来しているにもか  
かわらず、またも野放図という表現  
による推理は、厚生行政を第三者の  
傍観者のみにみているとしかいえない。  
また実際に、野放図な増加があると  
すれば、民間医療保険の膨張に対し、  
適切な行政指導が行なわれない時に  
おこり得るおそれがある。

『医療制度を含めた社会保障制度  
は、中長期的視点に立つて安定的に  
機能するかどうかの配慮が重要であ  
る』医療制度の公平かつ安定をはか  
るために、負担と給付の平等がはか  
られるべきであるが、まず負担の平  
等の見地から、医療保険制度の統合  
一本化が実施されなければならない。  
この点に關し、白書は制度間調整の  
必要を認めているが、公的医療保険  
制度の一元化をめざして努力するこ  
と述べ、また医療費の費用負担につ  
いては将来八割程度で統一することが  
適当と強調している。

**「家庭医制度」について(第2  
章、第3節)**

家庭医制度というものを創設しな  
ければならない必然性があるであろ  
うか。『現在の開業医は単科診療と  
は言え、一般診療の上に、半専門的  
診療ができるまでの学術を修得し開  
業している。それだけ、診療能力は  
諸外国よりも高い。家庭医が初期的  
な総合診療を行なうことが、小外科

・小眼科・小耳鼻科まで診療できる  
ものであるならば、その設備投資費  
は、今の単科診療よりもより莫大な  
ものが必要となる。また、医学・  
医療技術が発達した今日、初期的な  
総合診療といつても、これを学習修  
得することは不可能である。医事紛  
争も厳しい折柄、そのような総合診療  
が可能であると考える医師は一人も  
ないであろう。厚生官僚の画いてい  
る家庭医像は、現状の開業医の診療  
レベルを引き下げて良いから、万  
能の便利医師を望んでいるとしか思  
われない。初期的な総合診療は、今  
の開業医の単科診療をネットワーク  
で実現できることである。(愛知医  
報、中村会長の「家庭医制度の法制  
化に反対する」より抜粋)この問題  
に關しての私見であるが、厚生省は  
雑貨屋としての家庭医を作りたいの  
であろうか。消費者の利便性をたて  
まに、実際はコスト的にみて安上  
りであろうとの本音がうかがわれる  
そして高級品志向者は専門店へ行け  
ばよいと。雑貨店の店主はあらゆる  
種類の商品に責任を持つことは不可  
能であり、商品の質が低下すること  
は自明の理である。厚生省はそれも  
承知の上で、あえて前時代的な雑貨  
店方式、かつ配給(登録医制?)制  
を推進するのはただ、ふところ勘定  
のみからである。しかし結果は消費  
者のデパート(大病院)・専門店志向  
が増加し、医療費全体としてかえっ  
て無駄な出費とならう。それに比べ、  
日本の開業医制度は産地直販システ

**朝日社会福祉賞に輝く  
林 富美子さん**

都下支部 中西 清子

林さんは今年一月五日に朝日社会  
福祉賞に選ばれ、一月二十九日には  
朝日新聞東京本社で、受賞式があり、  
ともに朝日新聞に大きく報道された。  
受賞は、長年、らいに貢献したこ  
とと、特別養護老人ホーム御殿場十  
字の園で老人医療に尽くしていること  
に対してである。

らいはすでに旧約聖書に人々から  
忌み嫌われていたことが記されてい  
る。

『ペンハー』という映画に出てく  
る、らいの谷は、らいの部落の陰惨  
な情景を余すことなく写し出してい  
る。

らい患者は精神的に悲惨のどん底

切である』との厚生省の意向にまっ  
たく適合した制度ではないか。しか  
も、これから大学で育成にあたる必  
要もない、すでに開業医制度の効果  
は、日本が世界一の長寿国になった  
原動力として証明済みではないか。  
家庭医構想こそ、患者無視の策であ  
り、厚生省のこの上ない無駄費いと  
考える。

におかれるだけでなく、末期症状と  
して、手足、顔はくずれ、目はめし  
い、喉頭はおかされて声も出ない状  
態となる。

林さんは、このように精神的、肉  
体的に苦悩の極限におかれた、らい  
患者の友となったのである。

林さんのらいへの献身の動機は二  
つある。その一つは幼時における、  
らいとの出会である。祖母に連れら  
れ、普通寺に参詣の時、参道で物乞  
いをしてるらいの群れを見た。そ  
の時のあわれな姿は、いつまでも脳  
裡をはなれなかつた。今一つは、東  
京女子医専時代、市谷教会で受洗し  
た時、もっともしいたげられてい

人のために働こうと決心したこと  
である。

岡山県長島愛生園に勤務のころ、  
らい会議で上京した時私の所に泊  
らしたことがあった。その折、明日の  
予定はとの私の質問に「患者さんの  
眼鏡を買って」と、患者さんの家族  
を訪ねて近況を伝えること」という  
答えがかえってきた。久しぶりに上  
京したのだから自分の身の廻りの買  
物でもするのかもしれないと私は、  
彼女を驚きの目でみつめたのであった。  
林さんは現在、十字の園に勤め、  
朝九時から回診をはじめる。

左手に聴心器をもち右手で手押車  
を押してゆく。車の中にふかし芋、  
まんじゅうなどが入れている。

ふかし芋の匂いと甘味は老人をよ  
ろこばせる。しかし、手押車が押さ  
れない日があつても、彼女のやさし  
い手が老人の肩におかれる時、老人  
の心の中にジーンと手のぬくみが伝  
わってゆく。

林さんは今日まで、らい療養所の  
らい患者とホームの老人に生涯を捧  
げてこられた。その足跡は「野に咲  
くペロニカ」と「夕暮になつても光  
はある」の著書に詳しい。

林さんは生来、虚弱であり、今も  
病弱である。ご自愛を祈りつつ筆を  
おく。

**参照図書**  
一、野に咲くペロニカ  
二、夕暮になつても光はある  
右二冊とも 林富美子著/発行  
所 清山社(電話四四一四一五六)

一万ドル寄付するとの約束がされて...

議事

一、定款細則について
今後定款および細則について検討...

連絡事項

(1) 東京都支部連合会より日本女医学会総会に...

常任理事会議事録

日時 昭和60年12月21日
場所 東急文化会館内ホール

出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石...

11月30日 理事会および学術研修会を京王プラザホテルに開催

(1) 桐田美代先生宅および医院類焼見舞に際し札状あり

各部報告
(広報部) 八木常任理事

日本女医学会誌について
広報部会を開催し新年号を作成中

(渉外部) 佐野常任理事
来月4月国際女医学会西太平洋地区会議の折りにDrモラー来日予定

(国際女医学会に)
藤井国際連絡書記

(1) 西太平洋地区会議について
前回観光コースとして第一案から第四案まで発表されたが、第四案を省き新しいコースをいれる

(2) 国際女医学会第二十回国際会議について
一九八七年4月26日〜5月2日にイタリアのソレントで開催される国際会議の演題募集を会誌に掲載する

議事
一、昭和61年度事業計画案について
次回1月の理事会に各部より事業計画と予算案の検討をする

二、定款について
(1) 構成委員の追加希望者があり、

理事会で検討する。
(2) 今後定款について検討を要する事項

理事が評議員および予備評議員をかねる場合

・ 役員および準備員について
・ 表彰または顕彰について
・ 国際連絡書記について

以上の項目について定款委員会で検討する

三、入会のお誘いについて
別紙入会案内について検討し、細部については庶務部でさらに検討する

四、昭和61年総会について
5月24日の観劇および観光

・ Aコース 歌舞伎座「団菊祭」夜の部

・ Bコース 帝国劇場「屋根の上のヴァイオリン弾き」夜の部

・ Cコース 夜の都内観光
一万円位

以上の詳しい案内を会誌送付時全会員に封入する

五、その他
(1) 外国人の入会について
日本の医師免許を有する外国婦人または外国の医師免許を有し日本に在在する外国婦人は、特別会員として入会を許可されている

理事会議事録

日時 昭和61年1月25日
場所 ホテル・センチュリーハイアット

出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、白橋、野沢、橋本、平瀬、藤井、丸山、三好、八木、石川、稲生、井上、大原、大原、川口、小出、小暮、関口、南雲、二村、野中、野本、野呂、橋川、藤田、添田、西山、山口、欠席者(敬称略)

IAのメンバーの何人かは代表として、すでに国際平和の会に参加した。各国女医学会が国際平和年に関連した活動計画をもっていはば知らせてほしい

付・国連広報委とNGOSが共同作成した「女子教育キット」が届いています

日本女医の実態調査アンケートについてお願い
去る三月中旬お願い申上げました日本女医のアンケートの締切日は、四月末日です(二万五千七百九十通の発送に)

現在、四千八百四十通のご返事をいただいております。ご多忙中ご協力いただきましたことを厚くお礼申し上げます

まだ締切まで数日ありますので、一人でも多くの方に返信いただければそれだけ確実なデータが得られますので、まだ投函をお忘れの方はもう一度お改めの上、よろしくご協力のほどお願い申し上げます

◎お詫びと訂正
本誌百五号に左記の通り誤りがございましたので、ここに訂正するとともにお詫び申し上げます

(誤) 女医の総数は男医の約10%
(正) 女医の総数は男医の約10%

理事会議事録

日時 昭和60年11月30日
場所 京王プラザホテル43階・ムーンライイト

出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、藤井、丸山、三好、八木、石川、稲生、井上、大原、川口、小出、小暮、南雲、二村、野本、野呂、橋川、藤田、山本、添田、山口

欠席者(敬称略)
石津、鶴川、関口、野中、三神、西山

山崎会長挨拶
昭和60年9月28日の理事会議事録の確認をする

庶務報告
野沢常任理事
10月26日 常任理事会開催

10月28日 日本女医学会誌百四号ルーベンゲンパンフレット、会費納入依頼、振込用紙発送

11月16日 昭和60年度会員名簿発送

その他
(1) 厚生省健康政策医事課より公益法人概況調査についての協力依頼あり

(2) 日本女医学会東京都支部連合会より祝いの札状あり

(3) 故猪野利先生、故森井ツル先生のご遺族より香典の札状あり

(4) 青梅保養院より故仁藤智恵子先生への香典の札状あり

生への香典の札状あり

連絡事項
(1) 国際人権規約完全実施促進連絡会議よりフォーラムの案内について

日時 昭和60年12月3日(火)午後四時〜六時

場所 婦選会館
参加費 五百円

次の二点につき理事会での承認を得る

(1) 科学博医療救護活動終了に際し、東京都支部連合会へ祝い金十万円贈呈する

(2) 国連婦人の十年日本大会が本年11月22日開催されるにあたり、その大会経費として五百万円を要し、うち半額を加盟四十八団体で拠出してほしいとの依頼に対し十万円の寄付をする

会計報告
橋川理事
10月分 別紙どおり報告 承認

各部報告
(事業部) 白橋常任理事

日本女医の実態調査のアンケート内容については事業部で決定し、印刷する

(学術部) 藤井常任理事

本日理事会終了後、第八回学術研修会および懇親会を行なう。出席者は例年より多く予定している

(広報部) 八木常任理事

会員情報欄に掲載する記事の投稿をお願いしたい

(渉外部) 佐野常任理事

柳瀬路子先生が生前国際女医学会へ

Circular Letter No.80

サーキュラー・レター No.80

国際連絡書記 藤井 儔子

試験管内受精をとり上げた十月のベルギー・ブラッセルにおける世界医学総会および「粗暴な子供たちおよび子供の虐待」をとりあげたスイス・ベルンで開催のCIOSのラウンドテーブルカンファレンスに代表出席

国連は一九八六年を国際平和の年と宣言

本年の基本目標は、(1)次の(a)、(b)に関し国連、そのメンバー、政府関係団体、非政府関連団体、教育、文化、学術、研究所やマスメディアの協力と効果的働きかけを促進させる

(a)国連憲章にもとづく平和促進、国際的安全と協力、(b)紛争の平和的手段による解決

(2)平和促進と維持のための代表機関である国連をより強力なものとする

(3)近代世界における平和の根本的必要性に目をむけ、また、思いめぐらすことを助長する

本年の活動計画にはM.W.I.A.のような非政府関連団体や関心をもつ個人の参加が待たれている。M.W.

\*第二十二回国際女医学会会議開催の募集
開催国および会議のメインテーマについては第二十二回国際会議の総会で報告されよう。事務局では第二十二回国際女医学会会議開催希望国の申し出を待っている。希望国は一九八六年三月末までに知らせしてほしい。開催国と決定されると会議に先立つこと二年前から無利子のローン制度を利用できる。会議後にスイスフランで返済する

\*第二十二回国際女医学会会議学術メインテーマ募集
各国のあらゆる分野の女医の発表の場となりうるようなレベルの高いテーマを希望する

\*広報委員会より
ニュースレター最終号が完成

\*国際交流委員会より

佐野、三神、山本  
昭和60年11月30日の理事会議事録の確認

庶務報告 三好常任理事

12月21日 常任理事会開催  
会計報告 石川理事

12月分 別紙どおり報告 承認

各部報告

〈渉外部〉 山崎会長

1月11日、第四十回国連N G O 総会報告会に出席する。

〈広報部〉 八木常任理事

日本女医学会誌百五号を近日発送予定である。

〈事業部〉

各大学より名簿を取り寄せて現在宛名書きを進めているが、四校が未着であるため協力を願いたい。

来月中旬にはアンケート用紙を発送する予定である。

〈学術部〉 藤井常任理事

講演研修会会場の選択に当たり四つのホテルより見積を取り検討した結果、10月11日(土)、ホテル・センチュリーハイアットで開催したかどうか。

特別講演は京都大学の井村教授、吉岡弥生賞受賞講演者一名を予定している。

国際女医学会演題提出者へ研究費および旅費の負担を考える。

例年開催する学術講演研修会の他にワークショップとかシンポジウム等若い会員を対象に、年一回くらい勉強会を持ったかどうか。

議 事

一、へき地診療への助成について  
東京女子医科大学無医地区研究会地域保健活動班へ四十万円助成する。

二、昭和61年度事業計画案および予算案について各部より要望予算額の提出あり。

〈学術部〉

講演研修費 一〇〇万円

研究助成費 三〇万円

ワークショップ費 八〇万円

アンケート調査費 二〇万円

〈事業部〉

へき地診療への助成 六〇万円

公衆衛生 三〇万円

支部助成 五〇万円

荻野吟子賞 一〇万円

女医の実態調査費 四〇〇万円

〈渉外部〉

渉外費は国際女医学会記念事業基金会計からの支出も考えて、次回予算額を提出する。

〈広報部〉

機関紙 二八〇万円

〈庶務部〉

俸給諸給諸手当 一一七〇万円

会議費 一五〇万円

什器備品費 三〇万円

印刷費 二〇〇万円

年金経費 六五万円

名簿引当金繰込 七〇万円

他の科目は昨年同額

三、入会のお誘いについて

別紙日本女医学会入会案内について検討した結果、会長、副会長、庶務部で再度検討し作成する。

当会の案内は日本女医の実態調査のアンケート依頼と一緒に発送する。

四、その他

(1)昭和61年総会について

総会の案内を近日中に発送する。

観劇および観光の料金が、当初より多少変更になっている。

(2)昭和63年総会開催地について

役員改選年のため東京にて開催する。

(3)東京海上火災保険株式会社より

当会会員名簿購入希望について

大学関係以外は三万円販売する。

(4)定款委員追加について

稲生、大原、野本、野呂の各理事を追加する。

以上

副会長(庶務担当) 久保田

庶務部 明石、野沢、三好

会 員 動 静

予備評議員(敬称略)

都下西支部 石川文字

入会会員(敬称略)

秋田支部 浜中純子

千葉支部 江沢泰子 佐脇慶江

東京都支部 堀野雅子

杉並支部 安部井瑠美子

世田谷支部 斎藤文子

神奈川支部 守内順子

静岡支部 山本洋子

石川支部 小山善子

福岡支部 臺丸尚子

新卒入会会員(敬称略)

北海道支部 溝口弘美

三重支部 増田佐和子

兵庫支部 川口真知子

岡山支部 千羽真貴

集 記



色とりどりの花が咲き揃い、桜の花だよりを耳にするにおよび、一氣に春の訪れを感じる今日この頃である。

東京の桜の名所、千鳥ヶ淵は、五月の東京サミットに向けて、ゲリラ対策のため一般人を締め出している。まことに無粋なことだが、これと言うのも天皇在位六十周年記念式典に反対する過激派による半蔵門や東宮御所へのロケット弾襲撃に端を発するもので、嚴重な警戒体制がしかれているためである。

春はまた春闘のシーズンでもある。今年度は急激な円高で、かなりきびしい状況下で迎える春闘でもある。例年のことだが交通ストライキだけは避けてほしいものである。

国際的には、リビアによるアメリカ市民をねらったTWA機や西ベル

物故者会員(敬称略)

群馬支部 中島妙子

都下西支部 仁藤智恵子

愛知支部 棚橋千賀子

富山支部 寺島雪江

大阪八支部 森井ツル

広島支部 木阪ユク

リンのデイスコ爆破事件があい次ぎ、両国間の緊張状態は極度に達し、一触即発の状態となっている。

一方、わが国の国会では定数は正の解決をみないまま、衆議院の解散、衆参両院の同時選挙がとりざたされ早くも選挙区詣りが始まっている。

日本女医学会は、山崎新体制となつて、いよいよ二年目にさしかかろうとしていて、本年度の総会は、これも新しく誕生した東京都支部の担当で開催されることになっている。

今野支部長以下、こぞ準備に余念がない。行事も盛り沢山に用意されている。活気に溢れた実り多き総会となることを願って止まない。

(小 暮)

昭和61年4月20日 印刷

昭和61年4月25日 発行

編集人 八 木 貞 子

発行人 日 本 女 医 会

発行所 東京都渋谷区渋谷2-

8-7 青山宮野ビル

社団法人 日本女医学会

TEL (498) 〇五七-

制作 東京都文京区水道1-

5-16 (815) 六四一五 株式会社 金剛出版